

IV-25

歳時記的要素に配慮した都市の空間構成に関する研究

～「ひたち都市環境写真コンテスト」応募作品の分析～

茨城大学 大学院 学生員 ○篠崎 伸
茨城大学 工学部 正会員 志摩 邦雄
茨城大学 工学部 正会員 小柳 武和

1.はじめに

近年、人々が求める都市環境は生活の便利さを求める声とともに、自然環境・住環境といった都市空間内での安らぎを重んじる傾向が顕著になりだした。それにともない、景観整備・アメニティ行政などが盛んに旗揚げされるようになり、美しい都市、魅力ある都市を生み出そうとする努力が試みられてきた。しかし、それらは生活の場をことごとく飾り立ててしまったり、地域性を失ってしまっているのが現状で、心の安らぎという観点からみると、必ずしも都市環境の改善につながっているとは言い難い。そのため、都市空間内での時間・季節の移ろいの変化を感じ取れる日常の環境について、再度検討する時期にきているといえる。

時間・季節の移ろいの変化を感じ取ることのできる時候・天文・地理・生活・行事・動物・植物に関する要素の一体系として『歳時記』がある。本研究では、都市空間内において“よい場面”として抜き取られた「ひたち都市環境写真コンテスト」応募作品 198 枚（以下コンテスト写真）を用い、時間・季節の移ろいの変化を感じ取ることのできる歳時記的要素を抽出・分類し、その効果を整理することを目的とする。

2.時間・季節による特徴的な景観

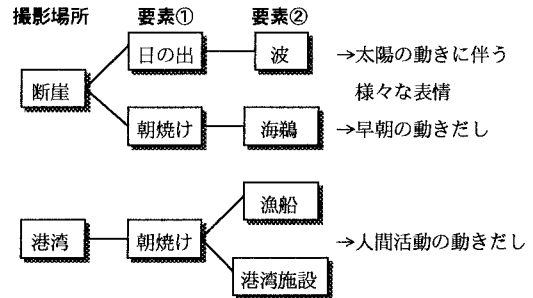
人々が時間・季節の移ろいの変化に伴って、どのような要素に着目し、よい景観としてとらえているかを把握するため、コンテスト写真から抽出された主対象・副対象を時間・季節ごとに分類した。時間に関しては、太陽の動きによる明暗の変化を基準とした。また、季節の区分に関しては、実際の人々の日常の経験に沿った気象学上の区分をもとにした。

そして、時間・季節ごとに主対象として写し込まれている歳時記的要素を抽出した結果、時間では 24、季節では 39 出現し、時間・季節の特徴的な景観として 40

タイプに分類することができた。それらの結果を表－1に示す。また、景観タイプの例として早朝を図－1に示す。尚、季節を判断しかねる作品は除いたため、作品数が 169 となった。

表－1 時間・季節ごとの作品数と景観タイプ

時間	作品数	抽出率	景観タイプ
早朝	24	12.12%	2
朝	12	6.06%	3
昼	130	65.66%	5
夕	4	2.02%	2
宵	8	4.04%	2
夜	20	10.10%	1
合計	198	100%	15
季節	作品数	抽出率	景観タイプ
春	41	20.71%	5
夏	70	35.35%	7
秋	26	13.13%	2
冬	27	13.64%	6
新年	5	2.53%	5
合計	169	85.36%	25



図－1 “早朝”に映える景観タイプ

3.構図のスケールによる分類

人々が、歳時記的要素を都市空間内でどのようにとらえているかを把握するため、都市空間内における対象のとらえ方として、構図のスケールによる分類を行った。主対象の写し込まれ方の大きさをもとに、表－2に示す6段階に分類でき、この構図のスケールが既存研究¹⁾の視距離でいう、どの距離帯に属するかを図－2に示す。近景域では、人間の動きや構造物のディ

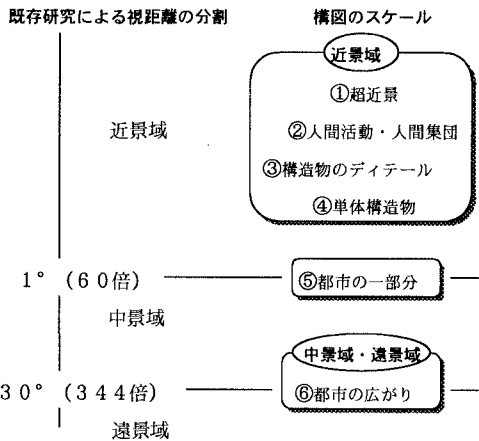
キーワード：都市空間構成、写真コンテスト、歳時記、構図、視線タイプ

連絡先：茨城大学工学部都市システム工学科 〒316-8511 日立市中成沢町 4-12-1 TEL0294-38-5175 FAX0294-35-8146

テールが注視され、中景域では都市の一部分が切り取られ、遠景域では都市空間の連続性や領域性が強調されている。

表－2 構図のスケールと作品数

構図のスケール	作品数	抽出率
超近景	30	15.15%
人間活動・人間集団	36	18.18%
建造物のディテール	8	4.04%
建造物全体	15	7.58%
都市の一部分	54	27.27%
都市の広がり	13	6.57%
合計	156	78.79%



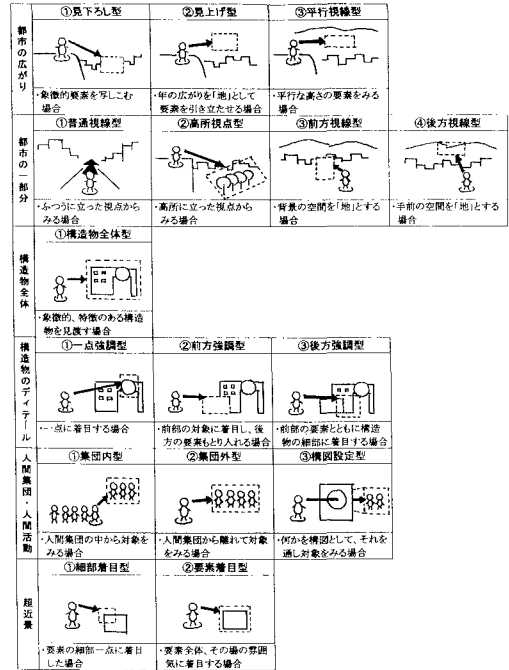
図－2 既存研究の視距離と構図のスケールの対応

コンテスト写真を各構図のスケールごとに分類した結果をまとめると、以下ようになる。

- ①…生活の一部分として人間生活と密着し、情感を感じることのできる歳時記的要素をとらえるスケール。
- ②…景観に臨場感、躍動感を与える人間活動を引き起こす歳時記的要素をとらえるスケール。
- ③…建造物のイメージに寄与する歳時記的要素をとらえるスケール。
- ④…象徴的建造物の意味を引き立てる歳時記的要素をとらえるスケール。
- ⑤…場の雰囲気の特徴がある大スケールの歳時記的要素をとらえるスケール。
- ⑥…都市空間の広がりを地とした場合に映え、空間の連続性、領域性が感じられる歳時記的要素をとらえるスケール。

4.各構図にみられる視線タイプの抽出

各構図ごとに主対象の写し込まれ方を視点場から分類すると、図－3に示す16の視線タイプに分類できる。また、その各視線タイプの効果を表－3に示す。



図－3 各構図のスケールにみられる視線タイプ

表－3 各視線タイプの効果

構図のスケール	視線タイプ	効果
超近景	細部着目型	人間の表情、髪一枚一枚の動きなどディテールのものに注目する。
	要素着目型	要素全体、またはその要素が引き起こす場の雰囲気にも注目する。
	集団内型	活動が行われる場の中を視点線とし、その活動の臨場感、躍動感を感じて体験できる。
人間活動・人間集団	集団外型	活動が行われる場から離れたところを視点線とし、その活動の場の雰囲気や伝わってくる。
	構図設定型	特殊な構図をつくりだし、それを構図として対象をみることで、 「ハレ」の特別な空間の意識がより強調される。
	一点強視線型	象徴的建造物の特徴ある外観を強調し、その建造物のイメージ形成に寄与する。
建造物のディテール	前方強視線型	直接的な効果が得られ、また、狭い構図の中で都市の奥行きを感じることのできる眺望となる。
	後方強視線型	空間の連続性、奥行き、その変化の様子を捉えることができる。
	建造物全体	建造物の持つ意味、効果などに注目し、それを伺い知ることができる。
建造物全体	普通視線型	グランドスケールとしてランドマークやアイコンとしてとらえる場合などに効果的に眺望できる。
	高所視点型	都市空間内で連続している要素を眺望する場合、ある限られた空間内の要素全体を眺望する場合に効果的である。
	前方視線型	背景に広がる空間と前景におかれた要素を対比させ、それを強調させる眺望を作り上げる効果がある。
都市の一部分	後方視線型	前方強視線と逆の効果。
	見上げ型	都市内で最も高き建築物の存在を確認し、都市の全体像のイメージ形成に効果的な眺望を作り上げる。
	平行視線型	都市空間の広がりや地として都市の上空で行われる要素、自然現象を効果的に眺望できる。
都市の広がり	見上げ型	高所からみることで、道路は、俯瞰景としてしかとらえることができないものを、同スケールで眺望することができる。
	平行視線型	

5.おわりに

本研究は、時間・季節の移ろいの変化を感じることでできる歳時記的要素を生かす、構図と視線という観点から都市の空間構成を分類した。得られた結論は以下の通りである。

- ① コンテスト写真から歳時記的要素を抽出し、40タイプに分類した。
- ② 歳時記的要素に配慮した構図を16の視線タイプに分類し、それらの効果を整理した。

〈参考文献〉

- 1)篠原修：『土木景観計画』、技法堂出版 P33, 1982.6